

春の嵐と共に、今年の大連休は始まりました。教会の礼拝はハーブの音色に包まれる、素晴らしいひと時を与えられました。心から感謝いたします。

神の愛に包まれている

「捜し物は何ですか」という歌い出しの曲があるように、私たちの人生は、具体的にも、生きる意味や進路などの目に見えない部分でも、いつも捜し物をし続けているということができるでしょう。そして、探している、という時点で、その探しているものは、見つけることが困難であったり、出てくる可能性がほとんど無いという状況だといえるでしょう。途方に暮れる、焦る、どうしようと悩む、それが捜し物をしている時の人間の心理です。

私自身の経験からすると、その解決策は、代替りのものを考える、諦めて新しいものを手に入れる、ということが圧倒的に多い気がします。それは、苦しい気持ちから早く解放されたいという心理がそうさせるのかもしれませんが。

しかし、今朝の箇所を読むと、天国の法則は、そうではないと告げています。失くし物をする子供は「ものを大事にきなさい」と叱られることがあります。捜し物と愛着心が関係しているからです。イエス様の例え話の女性は、見つかる可能性の極めて低い銀貨1枚を、必死になって探しています。あるアニメ映画で、お父さんの形見の指輪を、広大なゴミ山の中で探すという感動的なシーンがありました。絶対にあきらめない、その執念は、大切な思い出や誰かと、強い絆で結ばれている証しなのです。

女の人は、ついに銀貨を見つけました。ユダヤでは、10枚の銀貨を綴ってネックレスにして、大切な記念の品にしたそうです。もしかしたら、この1枚は、その糸がほつれてこぼれた中の最後の1枚だったのかもしれませんが。(ロマンチックですね)

この話から、取り戻した喜び、見出した感激を、私たちも垣間見ることができると思います。そして、それこそが、天使たちの喜びであると聖書は語っているのです。そして、それではそこまでして必死に探しているものは何か、という黙想を深めていくと、私たちは神の愛の大きさに驚くことでしょう。

イエス様が探し求めているのは、神に立ち返ることを拒む、私たちの魂なのです。一番、見つけることが難しい捜し物は、自分自身の欠けた部分を埋める、ピース(かけら)だといえるのでは無いでしょうか。イエス様は、十字架の苦難と死という代償を払ってまで、私たちを、探し求めてくださいました。私たちが、実は、神様のピース(かけら)であり、その帰るべき場所に戻った時に、完全な姿になることを、教えようとしてくださったのです。今朝も、この礼拝に、天上では大きな喜びが沸き起こっていることでしょう。